

## 二種混合（ジフテリア・破傷風）予防接種について

～接種を受ける前によくお読みください～

### ジフテリア、破傷風とは

#### ・ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。1981年（昭和56年）にジフテリア百日せき破傷風混合ワクチン（DPT）が導入され、現在では国内の患者発生数は年間0が続いています。

感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2～3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

#### ・破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉の強直性けいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状が気付かれ、やがて全身の強直性けいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。患者の半数は本人や周りの方では気が付かない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力（免疫）をもっていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

### 二種混合（ジフテリア、破傷風）ワクチンについて

第1期は、三種混合又は四種混合ワクチンで初回接種3回、追加接種を1回行います。

第2期は、11歳～12歳時にジフテリア破傷風二種混合ワクチン(DT)で接種を1回行います。

確実に免疫をつくるためには、決められたとおりに接種を受けることが大切ですが、万一間隔があいてしまった場合には、かかりつけ医または市町村に相談して下さい。

### 副反応について

DT2期で最も多い副反応は、接種局所の反応です。注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの反応が7日目までに約31%認められます。発赤や腫れは数日で自然に軽快しますが、硬結は小さくなりながらも、数か月認められることもあります。接種後の37.5℃以上の発熱は、0.5%未満です。

重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師に相談して下さい。

裏面の注意事項も必ずごらんください。

## 予防接種を受ける際に、お医者さんとよく相談しなくてはならない人

以下に該当するお子さんがいると思われる保護者は、かかりつけ医がいる場合には必ず前もってお子さんを診てもらい、予防接種を受けてよいかどうかを判断してもらいましょう。受ける場合には、その医師のところで接種を受けるか、あるいは診断書または意見書をもらってから他医で予防接種を受けるようにしてください。

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けているお子さん
- ② 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられたお子さん
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん  
けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起きているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ず、かかりつけ医と事前によく相談しましょう。
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん（たとえば、赤ちゃんの頃、肛門のまわりにおできを繰り返すようなことがあった方の場合）
- ⑤ ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことがあるお子さん

## 予防接種を受けたあとの一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間程度は、医療機関（施設）でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- ② 接種後、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ④ 当日は、はげしい運動は避けましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

「予防接種と子どもの健康」2019年度版より

## 予防接種による健康被害救済制度について

ワクチンの種類によっては、極めてまれ（百万から数百万人に1人程度）に脳炎や神経障害などの重い副反応が生じることもあります。

このような場合に厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

以上の注意をよく読んで、わからないことがあれば医師に質問しましょう。